

## スポーツ健康福祉学科 《アンケート結果の分析と学科としての対応・改善策》

### 「プロフィール」設問 1～5

回答率が45%と最も低かった。学年別では3年生が12.7%と低い回答率であった。性別では男性が74.6%、女性が25.4%と男性が多い特徴がある。通学手段では最も多いのが自動車(42.9%)で、ついでバイク(22.2%)、自転車(17.5%)であった。一方、徒歩での通学者(1.6%)がいた。通学時間は30分以内が84.1%で大半を占め、60分以上(7.9%)の学生もいた。

### 「大学生活について」設問 6～26

生活のサイクルで最も多い結果は、クラブ活動(44.4%)で半数近くであった。次いで、学内学習(12.7%)、自宅学習(12.7%)であった。クラブ活動やサークルの頻度は週1～3回が34.9%、週4～6回が33.3%と7割近くが週の半分以上活動している。これは例年同様に本学科の最大の特徴であると考えられる。一方でクラブやサークルに参加していない学生も2割程度いる結果であった。アルバイトは、約半数の49.2%が週1～3回行い、週4～6回も22.2%おり7割の学生がアルバイトを定期的に行っている。アルバイトをしていない学生も23.8%いた。本学のイメージでは、多くの学生が変わらない(69.8%)と答え、25.4%は良くなったとしている。しかし例年見られる通り、悪くなったと回答する学生が若干数(4.8%)いることは見逃せない点である。学内での居場所は、大半の47.6%が講義棟で、次いで食堂(28.6%)、図書館(14.3%)であった。特に1-2年生は授業が詰まっており、休み時間等は講義棟で過ごしていることが多いと考えられる。一方、その他(7.9%)の多くは4年生の可能性があり、時期的に採用試験対策や卒論対策として演習室等を利用している可能性が考えられる。休日や長期休暇は、先の質問に関連したアルバイト(57.1%)とクラブサークル活動(52.4%)が多い。学費の工面では、74.6%が親・親せきからの援助で、54%が奨学金を利用している。また34.9%がアルバイトと答えている。73%が一人暮らしをしている。生活費は、親族と同居をしている場合はアルバイト58.8%、親からもらうが47.1%であったが、一人暮らしでは、アルバイトが76.1%、親からもらうが32.6%と差がみられた。好きな講義は半数以上の学生が2～4つと答えた。学生生活での悩みは39.7%が悩みはないと答え他の学科より多い結果であった。退学を考えたことがある学生は6.3%と少ないが、理由が心身の問題が50%であった。

### 「自主学習について」設問 27～29

平日の勉強時間が30～60分(33.3%)、60～120分(28.6%)で、多くの学生が一応勉強をしているようである。またシラバスの認知度も半数以上の57.1%が知っていると答えている。

## 「学科としての対応・改善策」

本学科の特徴は、例年と同様に多くの学生がクラブサークル活動に参加し、定期的にアルバイトも行っている。また大半の学生が一人暮らしをしている点である。このことから、学生の生活状況の変化の把握や体調、交友関係等も学科教員で情報交換を行い、しっかりとした学生の支援を行う必要があると考えられる。特に本年度の結果では、休学や退学を考える学生は少ないものの少なからずおり、例年のように学力の問題以外に、心身の問題と答えた割合が多かったことから、学生との関係づくりをより積極的に行い問題解決の糸口を見つけるための支援に取り組む必要があると考える。

## 臨床福祉学科 《アンケート結果の分析と学科としての対応・改善策》

### 「プロフィール」設問 1～5

回収率は46.2%である。2～3年生はおおむね3割の回答があったが、1年生は1割の回答しか得られていない。通学手段（問4）は自動車（61.7%）、バス（16.7%）、電車とバス（10.0%）の順で比率が高く、他学科に比べて自動車の比率が高い。通学時間（問5）は30分以内が6割を占め、それに次ぐ60分未満（30.0%）は本学では最も高い。延岡市近郊からの入学者が多いことによるものと予想できる。

### 「大学生活について」設問 6～26

講義以外の生活の中心（問6）は、アルバイト（31.7%）、自宅自習（21.7%）、学内自習（20.0%）の順で比率が高く、とくにアルバイトは全学のなかで3番目に高い。また、前年と比較してゲームの比率が下がっている。図書館自習（6.7%）、クラブ活動（1.7%）は他学科よりも低い。アルバイトの頻度（問8）は、していない（36.7%）、週1～3回（35.0%）であり、アルバイトの頻度はあまり多くない。学内での居場所（問10）は、講義棟（61.7%）と図書館（18.3%）が中心である。前年度比率の高かった食堂は僅かでありこれはコロナ禍の影響によると推察される。ロビーやホールの比率が他学科よりも高い。入学前後の本学のイメージ（問9）は、変わらない63.3%を占め、他学科に比べて良くなった（18.3%）の比率が高いが前年度より比率が下がっている。現在の世帯状況（問13）は、約半数（56.7%）が家族等との同居しており、本学で最も比率が高い。また、学費の工面（問15）は親等からの援助に加えて、半数近く（同居40.0%、一人暮らし52.2%）がアルバイトで工面している。大学生活の悩み（問19）は、進路や就職のこと（63.3%）、勉強や成績のこと（51.7%）、友人関係（26.7%）、経済的問題（26.7%）などの比率が高く、前年度と同様の傾向を示している。相談相手（問20）は、友達（60.0%）が最も多く、身内（43.3%）、チューター教員（33.3%）とつづく。とくにチューターは本学ではスポーツ健康福祉学科と同率で最も比率が高い。休学または休学を検討する者（問21）は33.3%あり、その理由は勉学意欲の喪失（25.0%）、心身の問題（20.0%）である。また、退学を検討する者（問25）は20.0%おり、経済面や学生間の問題、心身の問題など多岐にわたる。

### 「自主学習について」設問 27～29

平日の学習時間（問27）は60分未満が35.0%、30分未満が21.7%であり、0時間が15.0%ある。また、休日（問28）はやや勉強時間が長くなっている傾向は読み取れるが、全学のなかでは勉強時間が短い。シラバスの記載内容（問29）は73.3%が認知していた。

## 「学科としての対応・改善策」

本学科学生の特徴として、①自宅生が多く生活費の工面としてアルバイトをする者が多い、②学習時間が60分未満の比率が高い、③進路・成績に悩みを持つ者が多い、④チューターと相談しやすい点が挙げられる。前年度に比べてゲームの比率が減り、自宅・学内学習の比率が高いが学習時間は十分とは言えない。経済的事情を踏まえるとアルバイトの規制は難しいが、少しでも学習時間を高める工夫が必要である。学生が自由に使える学習スペースとして、コロナ禍で三密に対する配慮をしつつ演習室等の有効利用について検討していきたい。前年度と同様、福祉職養成の学科であるが進路の悩みが多い。また、約1/3の学生が休学を検討しており、前年度よりも比率が高いことは緊急の解決課題である。本学科はチューターと相談しやすい環境を活かして、早期の面談を実施するとともに、本人や家族との同意のもとで、学科教員間、授業担当者との連携を図り情報共有を共有していきたい。学科のイメージが向上した者の比率が前年度と比較して低下している。学生のニーズを読み取り丁寧に対応することで学生の満足度の向上につなげたい。

## 作業療法学科 《アンケート結果の分析と学科としての対応・改善策》

### 「プロフィール」設問 1～5

回答率は47.4%だが4年次が22.2%と特に低い。現4年生は従来より協調生が低かったが、アンケート期間が臨床実習直前だったことも理由として考えられる。男女の比率はほぼ同じだった。通学手段は自動車が40.7%、バスとバイクがほぼ20%だった。通学時間は74.1%が30分以内だった。60分以上が14.8%だったが、家庭の事情により大分や宮崎市からの通学による者が多かったためである。

### 「大学生活について」設問 6～26

講義外の過ごし方は図書館自習と自宅自習が共にほぼ20%程度で、前年より向上している。クラブなどはしていないが60%近くであり例年と変化はない。アルバイトは59.3%がしておらず前年度の2倍程度となっているが、これは新一年が不在であることが関与していると考えられる。大学に対するイメージは変わらないが66.7%と昨年並だが、良くなったが0%および悪くなったが33%とイメージ低下の傾向にある。大学内の居場所について、昨年は講義棟が22.3%食堂が57.5%だったが、本年度は講義棟が55.6%、食堂が11.1%と逆転している。新型コロナに対する意識によるものだと考える。休暇の過ごし方はアルバイトが昨年46.5%だったのが29.6%と低下している。学費の工面や一人暮らし、生活費などについては昨年度と大きな変化は見られない。好きな講義は66.7%がなしであり、昨年の52.1%より悪化している。悩みは進路が63.0%、勉強が48.1%であり昨年の41.1%および30.1%よりも悪化している。しかし友人関係を悩みとするものは20.5%から7.4%と少なくなっている。休学したいと思った理由は進路についての疑問と心身の問題が共に33.3%だった。昨年度はいずれも13.6%であり倍増している。退学を考えた学生は29.6%と学内で最も多く、この傾向は昨年と同じであり、その理由も50.0%が勉学意欲の喪失であった。

### 「自主学習について」設問 27～29

平日の勉強時間では、0時間が11.1%で、その他の項目はすべて20%程度だった。昨年は60分までが42.5%であり、この中間層が他の時間帯に分散したようである。休日の勉強時間は、平日とさほど変わらないが、120分以上が29.6%と若干改善している。シラバスに対する認知は66.7%だった。

## 「学科としての対応・改善策」

入学後の本学のイメージが低く、好きな講義は66.7%がなしであり、昨年の52.1%より悪化している。悩みは進路が63.0%、勉強が48.1%であり昨年の41.1%および30.1%よりも悪化している。休学理由も退学理由も勉学意欲の喪失と進路の悩みであった。進路の悩みは進級や卒業に対する不安だと考える。しかし、アルバイトも多くなか、勉強時間は他学科と比べても少なくはない。結果として、試験成績は例年よりも良好で、特に現2年と3年は過去の現額年よりもかなり良い。しかし、好きな講義がないと回答した者が66.7%だったのは問題である。指定規則によるかなりの詰め込み教育が原因のひとつと考えられる。各教員は講義資料や講義そのものの工夫などに取り組んでいるが、さらなる工夫が必要である。進路や成績の不安に対しては、学生のニーズをくみ取り積極的に対応していきたい。

## 言語聴覚療法学科 《アンケート結果の分析と学科としての対応・改善策》

### 「プロフィール」設問 1～5

回答率は65.9%（29名/44名）であり、2年生が全体の20.7%、3年生が55.2%、4年生が24.1%を占めていた。通学手段はバイクが20.7%、自動車が44.8%、バスが24.1%で、通学時間は82.8%が30分以内でした。公共交通機関であるバスの利用が比較的少なく、自らで通学手段を確保する必要性を示していた。

### 「大学生活について」設問 6～26

27.6%が講義以外の時間を自宅で過ごすまたは、アルバイトで比較的多かった。入学後クラブやサークル活動に参加をしているのは17.2%であった。半数がアルバイトしており、アルバイトをしている場合、最も多い頻度は週に1～3回であった。入学前後に本学のイメージは62.1%の学生が変わっていないと回答し、31.0%が悪くなったと回答しおり看過出来ない数字といえる。キャンパス内で過ごす場所は講義研究棟が86.2%であった。休日の過ごし方は58.6%が帰省、48.3%がアルバイトをしていた。13.8%が家族との同居であり、82.8%が一人暮らしであった。学費は75.5%が親や親族からの援助で、25.0%が奨学金を利用していた。家族との同居の場合、学費は72.4%が親や親族からの援助で、62.1%が奨学金を利用していた。家族や親戚と同居した場合、生活費は水道光熱費を除いて3万円以下が25.0%、5～10万円が50.0%を占めていた。生活費の工面は親などからの援助が75%と高くなっていた。一人暮らしの場合も、生活費は3万円以下が33.3%、3～5万円が41.7%を占めていた。工面は親などからの援助が62.5%を占めたが、アルバイトが41.7%であった。

好きな講義や実習の数はなしが48.7%、次いで2～4つが37.9%であった。大学生活での悩みは、同級生との関係や教師との関係が20.7%であった。また、悩みの相談の相手は、友人が55.2%と最も多く、次いで親・兄弟姉妹等が37.5%と多くなっていたが、チューター教員への相談が24.1%に留まった。休学した経験あるいは休学を考えた学生は13.8%で、その理由は心身の問題が25.0%で、学生間の問題が50.0%であった。留年経験は6.9%があり、その際、学力の支援をして欲しいと答えた。また、退学を考えたのは10.3%で、学生間の問題、学習意欲の問題等が理由として挙げられた。

### 「自主学習について」設問 27～29

平日1日の平均勉強時間は30分～1時間が27.5%で、1時間以上が過半数いた。休日の平均勉強時間は30分未満が24.1%で、52.7%が1時間以上であった。シラバスの内容は、82.7%周知していた。

## 「学科としての対応・改善策」

本学のイメージは学生の90%近くがポジティブに変化しなかった。その理由として、①約半数が好きな講義や実習がないこと、②学内の人間関係に悩んでいるに関わらず、2割強しか教員が相談相手として選ばれていないことが挙げられる。本学科も他学科同様、臨床実習や国家試験が必須となっているため、授業内容はある程度、決まっている。しかしながら、その教授方法は各教員が工夫でき、より魅力ある授業を展開出来得ると考えられる。学生が復習を自主的に行うような授業の工夫が必要であろう。そのことが、授業への動機付けに相乗的な作用をもたらすと考えられる。

また、教員が相談相手になれるように、積極的なコミュニケーションを図る必要がある。普段、教員から進んで声をかけるとともに、各教員のオフィスアワーの周知を図り、その時間帯をうまく活用して学生が自主的に、気軽に話せるような環境づくりが大切であろう。

## 視機能療法学科 《アンケート結果の分析と学科としての対応・改善策》

### 「プロフィール」設問 1～5

アンケート実施期間は4年次生の臨床実習期間と重複していたが、学科全体のアンケート回収率は約7割に達した。

通学手段はバイクと自動車を合算すると6割を超えており、定期的な交通ルールの確認、交通ルールの順守が必要であると考えられた。

### 「大学生活について」設問 6～26

アルバイトを行っている学生は62.5%と他学科と比較して高い割合にあり、休日や長期休暇も62.5%がアルバイトに時間を費やしていた。学費について、62.5%の学生は奨学金、37.5%はアルバイト収入で工面していた。

入学前後の大学のイメージについて、43.8%は「悪くなった」、6.3%は「良くなった」と回答した。他学科と比較して、「悪くなった」は最も高い割合、「良くなった」は低い割合であった。

好きな講義・実習が「なし」と回答した学生は68.8%で、他学科と比較して最も高い割合であった。

大学生活での悩みとして、62.5%が「進路や就職のこと」、50.0%が「勉強や成績のこと」を回答していた。その悩みを「誰にも相談しない」と回答した学生は37.5%で、他学科と比較して最も高い割合であった。

休学および退学を考える学生の割合は、他学科と比較して高い傾向にあり、その理由として「心身の問題」、「勉強意欲の喪失」が回答されていた。

### 「自主学習について」設問 27～29

平日および休日の1日平均勉強時間について、「30～60分」が48.3%でピークを示しており、他学科と比較してピークの勉強時間が少ない傾向にあった。

シラバスの予習・復習の記載について、「知っている」は81.3%であった。

## 「学科としての対応・改善策」

当学科の学生は、アルバイトを行っている割合が高く、アルバイト収入や奨学金を学費に充てていた。学科で検討可能な教育支出（学外実習に関わる費用、教科書代等）については、今後も教育効果に支障のない範囲で削減を図りたい。

半数以上の学生が学習面および進路面の悩みを抱き、比較的多くの学生がその悩みを誰にも相談しない現状にあった。学科として、教員へ気軽に相談できる雰囲気づくりに努め、特に、チューターによる学習指導および進路相談を一層丁寧なものへと改善したい。また、約7割の学生が好きな講義・実習がないと感じていたことから、学生にとって魅力的な講義の実施を目指し、科目単位で講義の内容および方法を見直したい。以上の対応により、休学者数、留年者数および退学者数を減少させ、さらには大学のイメージ回復へとつなげたい。

シラバスでの予習・復習の周知は一定の効果が得られており、今後も科目単位でシラバスの周知を実施するとともに、予習・復習の実施状況の確認に努めたい。学生の勉強時間は30～60分がピークであったことから、勉強時間の増加を図るために、科目単位で学習課題の内容および量を見直したい。

## 臨床工学科 《アンケート結果の分析と学科としての対応・改善策》

### 「プロフィール」設問 1～5

アンケートの回収率が 50.9%と平均を下回った。複数の教員が講義中にアナウンスしたが、残念な結果となった。本学科の女子学生は 9 名在籍しているが、そのうち 8 名が回答しており、これを反映して通学手段は自家用車の比率 (70.4%) が非常に高かった。

### 「大学生活について」設問 6～26

講義以外の時間を学習に充てている学生が 50%程度いるのに対し、アルバイトと回答している学生が約 20%いた。本学科では多くの医療・電子機器について学ぶことが多く、手の空いている時間も積極的に自主的な実習に取り組むことを推奨している。そのため、「アルバイト」は基本的には禁止（自粛）と指導しているが、経済的な理由もあってか高い値になっている。ゲームに時間を費やす学生の比率も高い。特にネットワーク対戦型ものは昼夜を問わず病みつきになる傾向が高く、社会問題になっている。一人暮らしの学生比率が非常に高く (85.2%)、この点に関しては例がなく注意が必要である。なお、悩みがないと答えた学生比率は高かった。

### 「自主学習について」設問 27～29

休日全く勉強しない学生の比率が全学科平均の 3 倍と高く、平日・休日共に 1 時間以上勉強する学生も半数程度しかいなかった。一方で、シラバスの予復習の認識率は全学科トップという矛盾した結果が得られている。勉強を「やらなければいけないが、やらない」ということである。

## 「学科としての対応・改善策」

本学科の学生の質の低下が著しい、ということは学科教員の共通認識である。「自主的な実習に取り組む」学生も以前より少なくなり、休み時間も多くの学生が携帯ゲームに勤しんでいる。遊ぶ感覚でアルバイトを行っている学生もいるようである。学科としては、本来の臨床工学の学びの楽しさ・臨床工学技士の職能の重要性について、コロナ禍で国中が苦労している現状を踏まえて、今まで以上に学生へ伝える努力をする必要があるのかもしれない。一方で、真面目に勉学に取り組んでいる学生がいるのも事実である。悪貨が良貨を駆逐しないように「より高いレベルへの導き」を学科内で再度共通認識としてもち、「学生の能力を引き延ばす」ため様々な手立てを検討していきたい。なお、ボランティア活動（河川清掃）を通じた学生—教員間の交流と心のケアやことある度の交通安全指導は今後も積極的に継続していく。

## 薬学科 《アンケート結果の分析と学科としての対応・改善策》

### 「プロフィール」設問 1～5

通学手段として薬学科学生 316 名のうち 51.6%が車で、また 15.5%がバイクで通学している。さらに 11.1%の学生が自転車で通学しているため、交通ルール、交通マナーの定期的な周知を行う必要がある。そして、バスおよび電車とバスで通学している学生が計 21.5%いること、さらに通学に 1 時間以上要する学生が 5%いることから、これらの学生に対しては講義および実習の終了時間の配慮、台風などの自然災害時の対応が必要と考えられる。

### 「大学生活について」設問 6～26

講義以外の生活サイクルの中心では、学内自習および図書館自習を行う学生の割合が約 30%と年々減少傾向にあることが分かる。設問 27 の平日の 1 日の勉強時間の結果と合わせて考えると、自宅自習と回答している学生の多くは十分な勉強時間を確保できていないことが推測できる。また、サークル活動を全く行っていない学生の割合が 82%と多く、気分転換の機会の減少や先輩後輩との繋がりが希薄になっている可能性が考えられる。

好きな講義・実習が 2 つ以上と答えた学生が 50%を越えていたが、ない学生も 34.5%おり、薬学・薬剤師に興味を持たずに入学している学生が一定数存在すると考えられる。大学生活の悩みとしては、やはり勉強や成績 (57.6%)、進路や就職 (30.7%) が多かった。これらの悩みを早期に収集できるシステムの構築が必要であると考え。また、休学や退学について考えたことがある学生が 21%程度と多く、その理由は勉強意欲の喪失、学力の問題、心身の問題が多く挙げられた。そして留年したことがある学生は 25.6%であり、留年時に大学に求める内容としては経済的支援と学力の支援が主であった。

### 「自主学習について」設問 27～29

平日の 1 日平均の勉強時間は 60 分以上が約 65%と多かったが、30 分未満も 15%存在した。休日でも 60 分未満の学生が 25.6%いることから、勉強時間が少ないことが学力低下の原因になっている可能性が、さらにこのことが留年に繋がっている可能性が考えられる。

## 「学科としての対応・改善策」

学生の 80%程度が車やバイク、自転車で通学していることから、オリエンテーション等で定期的に交通安全の指導を強化する。また、通学に長時間を要する学生に配慮して、講義・実習終了時間の徹底を行うと共に自然災害時の対応等を事前に具体的に周知することとする。

学力の低下については、自習時間の減少と相関性があると考えられるため、学生の自習時間を増やす取り組みが重要である。新入生時に自習する習慣をつけるために、毎日のホームワークを課すこととする。ただし、オーバーワークになってしまうと逆効果であるため、1 週間あたりのホームワークの量を学科全体でコントロールすることも必要である。この取り組みは薬学・薬剤師に興味がある学生には効果的であると考えられるが、興味・勉強意欲がない学生に対してはモチベーションを下げる方向に働く可能性がある。それを回避するために、毎日の必要勉強時間および各科目の概要・講義内容を入学前に伝え、学生本人および保護者に十分に理解してもらうことも重要である。これらの内容を入学前案内に含めることとする。成績不良者や勉強意欲が下がった学生に関しては、チューターを中心に対応しているが、成績不良および中途退学の予兆を早期に把握する必要があるが高まっている。そのため、定期的なチューター面談を行うこと、さらに成績や講義中の態度・雰囲気について、全教員でリアルタイムで共有できるシステムについてガルーンなどを用いて構築する。

## 動物生命薬科学科 《アンケート結果の分析と学科としての対応・改善策》

### 「プロフィール」設問 1～5

アンケートの回収率は68.8%であったが、留学中（休学扱い）の4年生12名を除外すると78.6%となった。通学手段はバイク・自動車を合わせると69.7%で、特にバイクによる通学生が多い（36.4%）ため、定期的な交通安全の注意指導が必要である。また、一人暮らしの学生が多く、87.9%の学生が30分以内の通学時間となっている。

### 「大学生活について」設問 6～26

アルバイトをしている学生の比率が68.2%と大学の平均値より高く、講義以外の生活サイクルの中心もアルバイトとなっている学生が多かった（39.4%）。生活費の工面を奨学金（50.0%）やアルバイト（64.8%）でしている学生が多く、大学生活での悩みに経済的問題をあげている学生も多いため（30.3%）、アルバイトが単なる社会経験以上となっていることが考えられる。学生生活の悩みは経済的問題の他に、勉強や成績（45.5%）、進路や就職（45.5%）が学科内では高い比率であったが、他学科と比べて、先輩との関係（12.1%）や後輩との関係（4.5%）に悩んでいる学生の比率が高かった。これは、本学科の特徴である、動物飼育を学年混合で実施することも多く、より上下の関係が密接であることによるものであると推察される。悩みの相談は誰にもしない学生が12.1%存在し、大学平均よりは低い、1割以上もの学生が誰にも悩みを相談できてないと考え、注意を払う必要がある。また、休学を考えたことがある学生が21.2%（14名）存在し、その理由として、心身の理由（35.7%）と回答していた学生が最も多かった。さらに、退学を考えたことがある学生が12.1%（8名）存在し、その理由に経済的問題、勉学意欲の喪失、進路に疑問（全て25.0%）が挙げられた。

### 「自主学習について」設問 27～29

平日の平均勉強時間は、非常に短い傾向がみられた（120分以上：9.1%、0時間：12.1%）。休日の勉強時間は長くなってはいるが、120分以上の比率が19.9%と低い。さらに、予習・復習についてシラバスへの記載を知らない学生が30.3%にもおよび、必要性を理解していない学生が多かった。

## 「学科としての対応・改善策」

バイクや車で通学している学生が多く、特に年に数回、事故の報告も受けているため、定期的に交通安全に関する指導をする。また、本学科の学生の特徴として、大半が1人暮らしで、生活費に充てるためにアルバイトをしている。学修への影響を個別に考慮しながら、アルバイトに傾倒しすぎないように注意を払う必要がある。

シラバスにおける予習・復習の周知ができておらず、シラバス自体を読んでいない学生も一定数いることが推察される。1日の勉強時間も確保できていないため、オリエンテーション時および履修登録前のチューター面談時に指導を徹底する。

本学科は実質の休学者、退学者は少ないものの、考えたことがある学生がいることはアンケートにて判明した。心身の悩みは早めに教員と共有し、勉学意欲を維持できるよう定期的に学生に寄り添ったチューター面談を実施する。また、進路に疑問を抱く学生もおり、過去に進路変更による退学を選択した学生もいたため、1年次の必修科目であるキャリア教育にて、各資格・進路担当教員による説明の時間をとり、それぞれの特徴、社会的意義、必須カリキュラムなどより理解を深める機会をつくる。



## 生命医科学科 《アンケート結果の分析と学科としての対応・改善策》

### 「プロフィール」設問 1～5

通学手段として生命医科学科学生 172 名のうち 51%がバイクと車で通学しており交通安全に注意喚起を行う必要がある。また通学時間 60 分以上かかる学生が約 8%おり、これらの学生に対しては実習等の終了時間や自然災害の発生が予想される場合への配慮が必要と考えられる。

### 「大学生活について」設問 6～26

講義以外の生活サイクルの中心は、学内および自宅での自習が 55%であり、アルバイトを全く行っていない学生が 59%と概ね修学に専念できる環境にあると考えられる。入学前と入学後で本学のイメージが悪くなった学生が 20%いるため、その要因を明らかにし、ネガティブイメージを払拭する必要がある。好きな講義・実習が 2～4 と答えた学生が 53%いた半面、ないと答えた学生が 29%おり、魅力ある講義や実習になるよう改善が必要と考えられる。大学生活の悩みとして勉強・成績 (57%)、進路・就職 (40%)、経済的問題 (13%) が多く、きめ細かなサポートを行う必要がある。また、人間関係でも友人との関係 (15%)、同級生との関係 (13%) 教員との関係 (6%) などが悩みになっている。悩みの相談相手には友達が 57%と最も多く、親族 (親兄弟等) 38%、チューター (20%)、同級生 (12%) となっているが、誰にも相談しない学生が 22%ほどみられ悩みを誰かに相談できる環境整備を考える必要がある。また、休学や休学したいと思ったことがある学生が 18%おり、心身の問題、勉学意欲の喪失、進路に疑問などが理由となっている。退学を考えた理由として勉学意欲の喪失、心身の問題、学力問題があがっている。留年したことがある学生は 6%で、経済的支援や学力の支援を学校に求めている。

### 「自主学習について」設問 27～29

平日の一日平均の勉強時間は 30 分～120 分以上が約 85%であったものの 30 分未満・全くしないが 15%ほど占めている。休日でも 30 分未満・全くしないが 12%ほどみられ、学力低下の原因になっている可能性がある。

## 「学科としての対応・改善策」

学生の半数が車やバイクで通学しており、本年度も連絡会等で交通安全の指導を強化する。また、通学に長時間を要する学生に配慮して、実習時間の効率化や、自然災害時の休講等を早め周知する。

従来から、学生の問題や悩み (勉強・成績、進路・就職、経済的問題) についてチューターを中心に学科全体で対処しているが、中途退学の予兆を捉え、学生の主体性とモチベーションを醸成することが今まで以上に必要となってきた。学業、対人関係、抑鬱や不安など、学生のさまざまな悩みに対応し、悩みを抱え込んだまま退学や除籍に至るのを防ぐことが重要になってくる。これらの問題の対応・改善策として、①教職員と保護者との連携の強化、学生の修学面と生活面を常に学科会議や学科教員間で共有、保護者へ学修状況の通知、定期的な学科主催の保護者懇談会の実施、学生課・保健管理センターとの連携体制を推進する。②円滑に修学を進めるための対応・改善策として、入学前のロジカル・コミュニケーション、初年次教育、及び演習形式の授業 (ゼミナール) などの積極的な導入、入学後にコーチング・フォローの徹底化を図る。③一貫性を持ったエビデンスに基づいた学生指導を実施する。さらに、アクティブラーニング型授業を推進・強化する。④学科会議等の場で問題が生じる可能性のある学生を早期に発見し、その対策をチームで提供できる仕組みを作る。学生に十分な充実感、達成感、満足感を与えるとともにチューターを中心としたチームでサポート体制に厚みを持たせる。

## 臨床心理学科 《アンケート結果の分析と学科としての対応・改善策》

### 「プロフィール」設問 1～5

回答率は64.6%（31名/48名）であり、全て1年生である。通学手段は自転車とバイクが22.6%、バスが25.8%で、通学時間は74.2%が30分以内、60分以上が19.4%であった。公共交通機関であるバスの利用が比較的多く、それと同時に、自らで通学手段を確保する必要性を示していた。

### 「大学生活について」設問 6～26

講義以外の時間を自宅で過ごすのが35.5%、アルバイトが32.2%と比較的多かった。入学後クラブやサークル活動に参加をしているのは6.8%であった。52.7%がアルバイトしており、アルバイトをしている場合、最も多い頻度は週に1～3回であった。入学前後に本学のイメージは67.7%の学生が変わっていないと回答し、29.0%がよくなったと回答した。キャンパス内で過ごす場所は講義研究棟が41.9%、図書館が25.8%であった。休日の過ごし方は48.6%がアルバイトをしていた。38.7%が家族との同居であり、61.3%が一人暮らしであった。学費は77.4%が親や親族からの援助で、61.1%がアルバイトで賄っていた。家族との同居の場合、学費は50.0%が親や親族からの援助で、41.7%が奨学金を利用していた。家族や親戚と同居した場合、生活費は水道光熱費を除いて3～5万円が25.0%、5～10万円が33.3%を占めていた。生活費の工面は親などからの援助が62.3%と高くなっていた。一人暮らしの場合、生活費は3万円以下が57.9%、3～5万円が31.6%を占めていた。工面は親などからの援助が68.4%を占めたが、奨学金が41.7%であった。

好きな講義や実習の数はなしが0名で、次いで2～4つが74.2%であった。大学生活での悩みは、勉強や成績のことが61.3%、進路や就職のことが48.4%であった。また、悩みの相談の相手は、親・兄弟姉妹等と事務職員が51.6%と多くなっていたが、チューター教員への相談が25.8%に留まった。休学した経験あるいは休学を考えた学生は12.9%で、その理由は学生間の問題、心身や身体の問題等が理由として挙げられた。また、退学を考えたのは3.2%で、経済的問題であった。

### 「自主学習について」設問 27～29

平日1日の平均勉強時間は30分～1時間が41.9%で、1時間以上が32.3%いた。休日の平均勉強時間は30分未満が22.6%で、38.7%が1時間以上であった。シラバスの内容は、61.3%周知していた。

## 「学科としての対応・改善策」

本学のイメージは学生の90%近くがポジティブに捉えてくれており、全員が好きな講義や実習があると答えている。全員1年生で、コロナウイルスによる休講期間もあり、大学内での活動も十分体験しているとは言えない。しかし、このポジティブなイメージを4年間維持するのが、教職員の役割であろう。そのためには、既に散見される課題に対して、学科として取り組んでいくことが肝要であろう。具体的には、以下の2点の課題が考えられる。1つは、学生の6割が勉強や成績のことで悩んでいるにも関わらず、相談相手として、教員が2割強しか選ばれていないことである。これには、教員が相談相手になれるように、積極的なコミュニケーションを図る必要がある。普段、教員から進んで声をかけるとともに、各教員のオフィスアワーの周知を図り、その時間帯をうまく活用して学生が自主的に、気軽に話せるような環境づくりが大切であろう。

もうひとつの課題は、進路や就職の悩みを半数近くの学生が有していることである。本学科は、複数の資格が取得でき、様々な進路が考えられる。したがって、学生自身が自己の適性を見極めるため、今後、インターンシップを含めたキャリア教育の充実が望まれる。また、キャリアサポートセンターと連携を図りながら、学生個々の希望を実現するような支援体制の構築が望まれる。